

要望書

水害の頻発・激甚化に対応する
治水対策の促進について
～ 大鞘川河川改修事業の早期完成 ～



(令和3年8月13日 大雨時の道路冠水の様子)

令和4年11月
熊本県八代市

河川改修の早期完成に関する要望書

本市の北部を東から西に流下する大鞆川^{おぎや}は、八代海に注ぐ流域面積約35km²の二級河川です。この流域は、数次にわたる干拓事業により造成された平野部であり特に江戸期に造成された中流域の千丁・鏡地区は堤防が低く、川幅が狭いため豪雨により家屋の浸水被害、道路の冠水、農産物への被害が増加しています。

令和2年7月豪雨においては、7月4日未明に約120mm/時間の大雨を記録するとともに、継続的な集中豪雨による河川の氾濫により、坂本地区をはじめとする市内全域に、甚大な被害が生じ、市民の生命・財産が失われたところでした。

また、令和3年8月13日にも約54mm/時間の大雨による冠水被害が発生しており、毎年の様に豪雨による被害が発生しているため、治水対策が急務となっています。

本川の改修については、熊本県により平成6年度から取り組まれています。事業着手から28年が経過しているものの進捗率は83%の状況にとどまっています。加えて、連携する排水対策特別事業により整備された排水機場が暫定稼動を強いられ十分な整備効果を発現できない状況となっています。

本川流域は、近くに九州新幹線新八代駅や九州縦貫自動車道八代ICがあり、日常の利便性により人口が増加している地域でもあることから、本川改修の早期完成は、地域のみならず本市の願いとなっております。

つきましては、安心して潤いのある豊かな生活と農業生産力のさらなる向上を目指すうえで、本川改修の早期完成が不可欠であり、所要額の確保に格別のご高配を賜りますよう要望いたします。また、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」後の、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の中で、国土強靱化対策に十分な予算を確保していただけるようお願いいたします。

令和4年11月

八代市長 中村博生